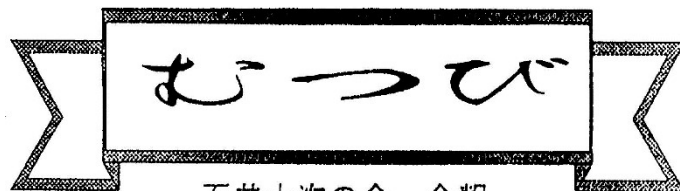


2021 年
(令和 3 年)
5 月 12 日



284 号

石井十次先生の教えに学ぶ

西都市 橋口登志郎

1 母と十次先生

今年 90 歳となる母の生まれた場所は、西都市穂北の原無田というところです。

私が小さいころよく母の実家に行っていました。バスで行くのですが、あの頃は宮崎交通のバスと国鉄バスが通っており、記憶だと宮崎交通は大口川経由、国鉄バスは穂北経由だった気がします。

穂北経由は茶臼原台地に上がるとき、道は狭く、崖っぷちのぎりぎりを通るバスに、とても怖かった記憶があります。そういえばバスはボンネットバスで、方向指示器は矢印がかたと落ちて曲がる方向を指す、アナログなものでした。

母の父、つまり私の祖父ですが、四国の松山からの開拓者だったようです。

私が小学校 4 年生の時亡くなりましたが、品が良くとてもやさしい祖父でした。

さて、実家の原牟田に行ったとき、よく母が私に言いました。

「ここには大変すばらしい先生がいらっしゃったのですよ。」「孤児となった、たくさんの子供たちを救ったのです。」「先生のお墓もあるのですよ。」「

だいぶ昔のことなので、定かではないですが、一緒にお墓をお参りした記憶がうっすらとあります。

きっと母は私にその先生のように立派な大人になってほしい、という願望だったのでしょうが、・・・残念です。

その先生は石井十次先生のことです。

その先生のことを教えてくれた母の影響もあってか、十次先生のことはずっと記憶にとどまっていました。

2 十次先生の意志を引き継ぐ児嶋草次郎先生との縁

また石井先生の意志を引き継いだ児嶋先生、友愛社にはいろいろな縁を感じる事も多くありました。

私が感じている、その縁を少し書かせていただきます。

先年お亡くなりになりましたが、美術家の加藤礁さん（瑛九とデモクラート美術家協会を立ち上げ、芸術のアンデパンダン活動をした）が 2001 年に宮崎県で新芸術集団フラクタスを立ち上げたとき、一緒に活動しようと加藤さんと訪れたのが、森の空想ミュージアムの高見乾司さんです。

加藤さんと茶臼原の森の中で高見さんと会いました。

高見さんは現代芸術、神楽、神楽面、美術史等に造詣が深く、その後色々と影響を受けました。彼をこの地に呼んだのも、芸術に理解ある児嶋先生だそうです。

美術といえば、倉敷に行ったときは、必ず大原美術館に寄って、現代美術を堪能します。

そして、石井十次先生を後援した大原孫三郎さんを偲んでいます（その関係は石井十次先生の「炭素と酸素」の言葉によく表れています）

大原美術館ではアンディ・ウォーホルの作品を見て感動しました。

また、理事長の児嶋先生には PTA の時何度か講演をお願いし、お話を聞かせていただきました。

友愛社にいるこどもたちに慈愛を持ちながらも、その子たちの以前の環境や現代社会について鋭く述べられたのも、すごく忘れがたいです。子どもをだめにする親の姿を知りました。

3 十次先生の教えに学ぶ

石井先生の教え（というか考え方）に「満腹主義」というのがあります、あの時代ですごく先進的なものだったなと今思います。

私は保護司をやっているのですが、今の更生へ導く方法論に近いものを感じます。

もちろん友愛社の孤児と保護司での罪を犯した人に違いはあるでしょうが、過酷な環境から真人間となっていく基としての考え方の原点は同じだと私は思います。

理論ではなく現場体験から導かれたものでしょう。

私は西都市内で空手道場「南空会」を持っています。

大学から始めた空手ですが、子供たちを教え始めて 20 年になります。

松濤館という流派ですが、20 年前友愛園に行ったことがあります。

それは友愛園で空手を教えていた高鍋の深水先生と当時妻南小の教頭をなさりながら、空手も教えていた柘植先生の関係からでした。その柘植先生が転勤で西都を離れたとき、まだ空手をしたいという子供たちの希望で、指導を引き継いだのが、南空会の始まりです。

子どもたちを指導しながら、石井先生の「非体罰主義」「密室主義」「ライオン教育」そして石井先生が手本とされたルソーの「エミール」などは教えの「肝」だだと改めて思います。

20 年もやっているといろいろなタイプの子たちに出会います。

まじめな子、素直な子、呑み込みの早い子、そして同じように、真逆の子もまたいます。

いう事を聞かないときもあります（子供は気分屋の面がありますから）、人間のできていない私は思わず怒鳴ってしまいそうになります（多少は怒鳴っていますが）、その時思うのは石井先生の教えです。

「非体罰主義」「密室主義」特に、1 対 1 になって行動を叱り、叱った理由を述べ、そして子供の意見に耳を傾け（なかなかしゃべりませんが）、そしてどうあってほしいか話をする、子供たちは少しは理解するようです。

頭ごなしに怒っても、また体罰をして、一見治ったように見えても、そこに本人の気づきがない限り真に治ってはいません。怒られた人の前だけ、治ったふりをしていることが多いものです。

石井十次先生は戦争や天災で孤児となった子供たちの命を救いましたが、命だけでなく子供たちの人格を形成していったと感じています。

この原稿を書く上において、久しぶりに茶臼原の石井十次先生のお墓に行きました。線香をあげ、それぞれのお墓を参りましたが（今気づきましたが、先生はクリスチャンでした・・・大丈夫かな）、真新しい「友愛」と記されたお墓を見ました。

そこには「人がその友のために自分の命を捨てること これより大きな愛はない」とかいてあり、その横には 19 歳でなくなった桂遥奈さんの霊標がありました。

彼女の事は今市長をされている橋田和実さんの講演で聞いたことがあります。

すごく哀しい話でしたが、友愛社が彼女の救いになったであろうと感じました。

手を合わせてきました。

今回原稿の依頼を受け、思いつくまま、書き連ねましたが、石井十次先生の生きざまは私の中に結構残っていることに気づきました。

最後にこの言葉を私も心にしっかりと持ち、行動していかなければと思っています。

「信じて疑うことなかれ、祈りて倦むことなかれ。為せよ、屈するなかれ。時重なれば、その事必ず成らん」

このような機会を与えていただき、感謝申し上げます。

「石井十次の会」西諸支部の発足

西諸支部長 石原 潤二郎

児嶋草次郎理事長の強い思いで、県西地域（小林・えびの・高原）に児童福祉施設、「石井記念神武の家」が開設されました。

これを機に「石井十次の会」西諸支部を立ち上げなければと数少ない会員で支部結成への準備を進めて来ました。携わった方は以下の方々です。

この施設の設置の際、たいへんご苦勞を願った地元会員の森山雅之氏、都城有隣園施設「仁愛の家」建設にも尽力した高山貫三氏を中心に「石井十次の会」の本部事務局や都城支部長持永ナミ子氏、副支部長（本部副会長）新森初男氏をはじめ都城支部の会員の方々です。

この方々のご指導を仰ぎながら世話人会を設置して、打合せ会を重ねながら会員拡大への呼び掛けや世話人自からの研鑽を積みました。

具体的には、石井十次資料館での学習や都城有隣園、仁愛の家の見学等を積み重ね石井十次先生の理念、教育方針、到達目標や児童福祉への理解を高めて参りました。

そして昨年、5月「石井記念神武の家」の職員の方々や高原町商工会職員の方々のご協力を戴いて5月16日（土）「石井十次の会」西諸支部結成第1回の総会開催の案内をしましたが、このコロナ禍の中、自粛をせざるを得なくなりやむを得ず延期をしました。

しかし、その後、各種の規制緩和の施策が発せられる様になり当初計画より規模を縮小しながらも11月28日（土）石井記念友愛社理事長児嶋草次郎氏、石井十次の会副会長新森初男氏、県会議員中野一則氏、窪菌辰也氏、高原町長高妻経信氏のご臨席を賜り、無事、第1回総会を開催する事が出来ました。

子供は家の宝、地域の宝、国の宝とよく云われて来ました。しかし、家庭に恵まれない子供達は古くから存在しており昨今は日々増大しつつあります。

私達は、今こそ石井十次先生の心を深く理解し児童福祉に対する社会的環境を醸成する事が必須であります。

私達西諸支部会員は、「石井十次の会」の目的を果たすべく日々努力して参る所存であります。只今、第一歩を踏み出したばかりであります。何卒先輩会員の皆様方のご指導を賜りますよう宜しくお願い致します。



児嶋理事長を囲んで世話人会員と神武の家の職員の皆さん

《 お し ら せ 》

★新会員のご紹介（敬称略）

【新富町】本部 博樹
【宮崎市】菊池 佐和子
【小樽市】宇田 有佑
【福岡市】松山 みどり
【西都市】寺田 和代

★ご寄付をいただきました（敬称略）

（一般）

【宮崎市】岡元 ます子 清水 昭男
永吉 洋次 酒匂 千昭
【都城市】新森 初男
【延岡市】松田 良子
【日南市】佐藤 信明
【高鍋町】長尾 昭
【川南町】都築 太左衛門・アツ子
【福岡市】田中 キヌ子
【春日井市】白木原 康則
【大阪市】山縣 文治
【さいたま市】新福 教一
【西宮市】上牧 鐵雄
【那須塩原市】杉尾 和子
【松戸市】杉 美律・巨子

（奨学金基金へ）

【宮崎市】西野 宏 飯尾 彪
田村 祥子 古賀 義明
深見 幸子 片平 達也
越山 理枝
【都城市】本郷 貞雄 大塚 幸治
豊丸 昭子
【延岡市】家高 清 佐藤 玲子
【西都市】壹岐 政顕 松岡 章子
今井 美富 河野 由美子
野村 健一
【高鍋町】㈱あおい会館 松井 有
富田 美智子 池内 誠治
浦 叶 団井 博
【木城町】山下 トシ子 栗田 滋代
長友 英親
【川南町】米田 幸代
【新富町】橋本 計美
【高原町】森山 雅之
【藤沢市】松岡 宏
【大阪市】永岡 正己
【長崎市】増田 康行
【東京都】三木 健一・俊子 永野 泰三
【和歌山県】米本 信篤
【大分市】姫野 多美子

★ 3/21～4/20の資料館来館者

団体・グループ 0人
個人 22人 合計 22人

ここまでの掲載者は編集委員会開催の都合により4月20日までのものとしています。

●今年も鯉のぼり揚がる

4月17日（土）、のゆり幼児園、ひかり、やまばと保育園の3園合同による恒例の鯉のぼり掲揚が、各保育園職員、友愛園児と職員、石井十次の会会員、近隣の有志が参加して行われました。

午前中の予定でしたが、あいにくの雨だったため、午後1時より挙行されました。

約150匹の鯉のぼりが、友愛園前の水田地の大空に泳いでいます。

なお、降揚は5月15日（土）に予定されています。



【 大空に泳ぐ鯉のぼり 】

★6月号の通信発送作業

6月 9日（水）9時から印刷・製本
10日（木）9時から製本・発送

★総会中止のお知らせ

昨年度に続き、今年度も「石井十次の会」総会を中止いたします。詳細は同封のお知らせをご覧ください。

※ 編集後記

「むつび」巻頭の1～2頁は西都市議会議員の橋口登志郎様からの玉稿をいただきました。ありがとうございました。

・・・文責 徳地

この会報は、宮崎県を中心に全国1700余の個人・団体に毎月送付しています。

社会福祉法人 石井記念友愛社

後援会「石井十次の会」

☎ 884-0102

宮崎県児湯郡木城町大字椎木 644-1

TEL/FAX 0983-32-4612

メール yuuaisya-jyuujinokai@kijo.jp